虚子記念文学館投句特選句・令和三年十二月

稲畑汀子・稲畑廣太郎　共選

館の内外に虚子あり冬ぬくし　福岡　阿比留初見

幽玄の蝕極めたる冬の月　京都　西村やすし

交差点それぞれにある師走かな　大阪　辻　昌子

冬耕の大地の言葉聞きながら　兵庫　吉村玲子

いたはりの心庭にも霜囲　兵庫　小柴智子

七五三小さく紅を引きにけり　大阪　山田　天

水鳥の声より湖の明け初むる　奈良　河村久美子

寝癖など氣にしてをれぬ日短　兵庫　塚本武州

うすもものいのちのうたや冬木の芽　兵庫　武田奈々

（青少年）

お歳暮の挨拶がてら虚子館に　大阪　和中　唯

（青少年）

入選句・令和三年十二月

青空や桂の冬芽びつしりと　三重　西澤与志子
島よりの英気連れ来し春日和　兵庫　川村ひろみ
山寺の残る紅葉の息づかひ　大阪　徳永由起子
落葉踏む音になつかし庭のあり　愛知　中野ひろみ
敷松葉見上げて次の命見ゆ　大阪　谷本房子
記念号待つ虚子館の冬紅葉　大阪　多田羅紀子
下乗石光る石段銀杏散る　香川　静川あさえ
帰り咲く花四五輪の日向かな　大阪　室田妙子
見渡せばただしい枯野走ろうか　兵庫　内橋可奈子
芦屋川清き流れに冬日差す　石川　辰巳昌彦
落葉踏む音に深まる宮の黙　大阪　山下幸典
芦屋句座入れて頂き冬ぬくし　福岡　小河美紗子
落葉踏む音を楽しみ庭巡る　兵庫　長安悦子
虚子館に膨らむ命冬木の芽　石川　村上秀吾
霜月に祈る心の集ひかな　兵庫　内田泰代
一舟の過るを翔たず陣の鴨　滋賀　石川多歌司
降り積もる落葉の邸の思惟一つ　兵庫　奥田好子
離れてはそつと寄り添ふ浮寝鳥　福岡　西村芳山
赤き実と白き花生け冬座敷　三重　池本準一
冬木立日当りながら風に揺れ　福岡　池田ひさ絵
どこまでも波に委ねて浮寝鳥　三重　松村咲子
作り置くおでんたつぷり京へ発つ　福岡　白石照子
飛石の丸四角丸実万両　福岡　宮脇睦子
太陽に尻を並べて日向ぼこ　大阪　杉山千恵子
汀子師を慕ひて集ふ師走句座　兵庫　宮本露子
いつまでも居たし虚子館日短　福岡　永利五十鈴
寒椿散るはなびらに時積もる　兵庫　高木　皐
一羽倚りまたまた一羽鴨浮寝　兵庫　西村みどり

北風やどの道行くも坂の街　兵庫　玉手のり子
丑年の子牛遊ばせ冬日向　大阪　林　曜子
推敲の歩の緩やかに落葉踏む　兵庫　齊木富子
活けられし山茶花早も零れ初む　兵庫　近藤六健
仕上がりの色に懐古の冬紅葉　兵庫　黒田千賀子
一人では広すぎる庭冬構　三重　前出美千子
懐かしき友の声聴く除夜の鐘　三重　前出公子
一斉に灯る電飾日短　鳥取　椋　誠一朗
しろがねの音符のやうに冬芽立つ　兵庫　武田優子
芦屋川五羽の家族の鴨浮寝　石川　辰巳葉流
大虚子に抱かれにゆく冬紅葉　岡山　石井宏幸
かくれ家のやう路地抜けて紅葉寺　京都　山﨑貴子
急くつもりなくても急いて十二月　兵庫　深尾真理子
引越して館まで歩く冬至くる　兵庫　辻田あづき
昨夜雨の澄みししずくや笹子来る　兵庫　永沢達明
尻込みを急き立ててゐる牡丹鍋　兵庫　辻　桂湖
枯柳影のもつれて暮れ行ける　兵庫　槌橋眞美
枯れてこそ生くること知る柳かな　鳥取　前田　千
暮早し明日に伸ばすことばかり　兵庫　池田雅かず
火鉢には炭との対話ありにけり　奈良　好川忠延
快癒へと息衝く声やシクラメン　兵庫　岩水ひとみ
冬山へ行く人と会ふ芦屋駅　兵庫　藤井啓子
枝折戸のしまり館庭冬ざれて　兵庫　平田　惠
遺影まだ冬座敷には馴染めずに　兵庫　小林志乃
災民の祈りの深き聖夜かな　京都　藤森大介
歩くことリズム出てきし小春かな　兵庫　岸川佐江
小百合の像冬日に光る湯村かな　兵庫　小川孝子
お疲れと職場を出れば冬北斗　奈良　堀ノ内和夫
虚子館の門をいろどる紅葉濃し　大阪　金岡道子

虚子館に鳴くからす寄せ実南天　大阪　長尾みちる

葱畑今は懐かし帰途を行く　大阪　梅田菜々子

学校の裏門ひっそり寒紅梅　兵庫　榊原彩羽（青少年）

蒼古たる庭に一輪冬椿　兵庫　田中節夫

冬蝶の哀しきまでに高舞ふ日　兵庫　二瓶美奈子

枯芝の日ざしに匂ふ母郷かな　大阪　石橋玲子

冬ざれや繋ぐねむりの庭の木々　兵庫　細田清子

句に詠みし恙落ちつき納句座　兵庫　福間笙子

よりどころなにとし舞ふや冬の蝶　大阪　田邉育子

翌朝の烏佇む雪の庭　愛知　池田千夏

六甲の色の抜け来て山眠る　奈良　芳林淳子

旅先の稲荷木もれ日降りそそぐ　埼玉　千葉幹子

義士の日の珍し雪を手に受けし　兵庫　道中義一

母の居し頃偲びたる玉子酒　兵庫　山岸正子

終電で帰れば妻の玉子酒　兵庫　大西美知子

玉子酒下戸にも薬嫌ひにも　兵庫　金田八江子

鉄骨の縮む響や師走の夜　兵庫　山崎渺美

追ひ越され追ひ越され着く師走駅　兵庫　三木雅子

年用意決意の断捨離ひとつづつ　兵庫　高市敦之

冬の朝東雲背負ふ山見上げ　神奈川　吉田月海

北風を雨と思ひて急ぐ知らぬ道　大阪　森口栞里

若駒や鹿毛のつやめく冬日和　大阪　丸

枯芒風の彷徨ふ芦屋川　兵庫　阿曽宏之

寄せ植ゑの色を豊かに春支度　兵庫　田村惠津子

盲導犬眺む主の寒のヨガ　神奈川　小堀公美子

停泊の雪雲の海晴れてをり　兵庫　足立朱麻

納め句座名告一声良しとせん　石川　伊東弥太郎

日だまりを独り占めして冬菫　神奈川　金子三奈乃

小春日のふと想ひ出し笑ひかな　埼玉　土井洋子

年惜しむ弁当箱を洗ひ上げ　兵庫　キートスぱんじょうし

拝む形して事切るる寒雀　和歌山　中島紀生

年惜む覚え少なき年なれど　神奈川　平野孤舟

年の暮老労ひつ夫婦酒　東京　宮村士々

捨つるべきことを捨てたり冬の星　神奈川　進藤剛至